

<研究ノート>

ドイツにおける

総合目録を中心とした図書館協力事業

——その歴史と現状—— 第I部 第2次世界大戦まで

丸山昭二郎

平野美恵子

はじめに

この第1部は主として、1938年にアメリカで出版されたプロイセン目録規則の英訳“The Prussian instructions”の訳者 Andrew D. Osborn の異例に長い序文によっている。Osborn の序文にはプロイセン総合目録の歴史とそれに密接に関連したプロイセン目録規則の由来、特徴と英米系目録規則との比較が42ページにわたって述べられている。本稿は総合目録と目録規則についてふれ、これに若干の補足を加えてある。

第2部には、第2次大戦後におけるドイツ連邦共和国の総合目録を中心とした図書館協力事業の実状と将来計画を調査して、これをまとめる予定である。

ドイツを中心とした

19世紀の欧米図書館界

近代図書館史はフランス革命から始めて

よいと考えられる。革命当時、フランスをはじめ、ドイツなど各地で王侯貴族、教会が所有していた多数の図書が押収され、混乱のうちに集積された図書がその後各地に分配され、それらをもとにした図書館が次第に開設されていった。

1808年に図書館学(Bibliothekswissenschaft)という語を初めて使用したといわれているドイツの M. Schrettinger もこの出来事に無関係な人物ではなかった。フランスに一番最初の図書館学校が開設されたのも、革命当時押収され、各地に大量に集積された図書を整理する上で必要な人材を養成することが急務だったからではないかとも考えられる。

本稿では背景を知る上で、19世紀のドイツ図書館界をまず概観したい。別表でドイツと対比させて英・米・フランスなどの主要な図書館関係の出来事を示してみた。当時この四か国間で、個々の事柄については多少の早いおそいはあっても、総体として

	ド イ ツ	ア メ リ カ	イ ギ リ ス	フ ラ ン ス
1800				
10				
20			CC	LS
30				
40	CC		CL	
1850	CL	CL CC		
60				
70		LA LJ		
80	LJ LS	LS(PR)	LA LC	PR
90	PC PR LA		LS PR	LC
1900		PC	LJ	

- PR 正式な図書館員資格制度
- LS 最初の図書館学校(英国は講習)
- LA 図書館協会設立
- LJ 最初の図書館雑誌
- CL 基本となる最初の目録規則
- CC 最初のカード目録
- LC 国立図書館の印刷目録刊行開始
- PC 印刷カード・サービス

は発展状況は大体同一ペースであったと考えられる。

蔵書量についてはアメリカよりヨーロッパの方が充実していた。現在ソ連を除くと、世界最大の蔵書量をもつアメリカ議会図書館も1900年当時は70万冊、ハーバード大学は57万冊であった。一方ヨーロッパでは大

英博物館の蔵書は1870年に100万冊を越し、ベルリン王立図書館は1900年当時150万冊を所蔵していたようである。

プロイセンにおける 図書館協力機構

1882年から1907年の25年間、プロイセンの教育行政を担当し、高等教育の改革などを行なった Friedrich Althoff は、その在任中図書館に対しても積極的な政策を行ない、近代的なプロイセン図書館協力システムの最初の組織者であるとされている。彼は中央目録サービスの価値をよく認識していて、精力的に図書館間協力の基礎固めを行なった。

またプロイセンの有名な歴史家で権力国家主義者であり、当時の政界にも大きな発言力をもっていた Heinrich Treitschke は1884年に、自己の創刊した『プロイセン年鑑』にベルリンの王立図書館(Königliche Bibliothek)に関する論説を掲げ、最後に王立図書館を中心とするプロイセン全体の図書館協力組織の確立を提言した。Treitschke は、まず第一歩としてプロイセン内の大図書館の目録コピーをベルリン王立図書館に集めるべきだとし、これがなされれば、他のドイツ国内の図書館もあとから積極的にこれに参加すると考えていた。

Treitschke の提言は当時の図書館界に受け入れられたが、総合目録の形については意見は一致しなかった。ドイツで1886年にカード目録用の目録規則を初めて発表し、同年最初の図書館学の教授としてゲッティンゲン大学に講座を開いた Dziatzko は分類目録を主張した。Kochendörffer は各大学共通の分類を定めることは不可能に近いとしてこれに反対し、そのかわり特別委員会を設置しそこで制定した共通目録規則

にしたがい、各大学図書館でカードを印刷する方式をとることを主張した。

1888年に Althoff は省令を出し、各図書館で作成している目録カードの記入事項を簡素化し統一させるため、中央事務局においてカードを印刷する事業を開始することを発表した。この事業を推進するため王立図書館長 Wilmanns を長とする委員会が設置され、同年12月印刷カード用目録規則のアウトライン10ページを含む報告書が作成された。

印刷カードはベルリン王立図書館において印刷することが勧告され、週単位で番号づけがされた新受入れ分と、図書館間の協力によって作成する既存蔵書分の2シリーズとすることになった。カード形態ではなかったが、1892年にカレントな受入速報“Berliner Titeldrucke”が発行され、定期的に領布されるようになったことにより、最初のシリーズは実現したといえよう。印刷カード形態のものは1909年から領布されるようになった。

プロイセン総合目録の企画と

その推進

1894年ベルリン王立図書館長 Wilmanns は、王立図書館とプロイセン各大学図書館の冊子体総合目録を印刷刊行するために30万マルクの子算を要求し、これが実現した。総合目録はすでに刊行されていた大英博物館とフランス国立図書館の蔵書目録にならって、アルファベット順目録とすることになった。

この総合目録事業で Althoff を補佐し、具体的な計画を推進したのは、Fritz Milkau であった。(彼は後に、第2次大戦前におけるドイツ図書館学の集大成ともいえる Handbuch der Bibliothekswissenschaft

<1931—40>をのこしている)

総合目録は最初カード形態とし、最終的に冊子目録を印刷することが計画されたが、総合目録用にプロイセンの図書館に共通の新目録規則を制定することが急務となった。総合目録の記入あたりのコストは40ペニッと見積られていたので、簡潔な記入にする必要があった。Milkau は新目録規則の概略を示したが、原則に関連して、総合目録を書誌的ツールとするかファインディング・リストとするかについて、その当ても論争があった。結果としては経済性を重視して、記述の要素を図書の識別に必要な最少限度にしぼり、かつ資料の価値によっては簡略記入を許す、当時としては画期的なものとなった。

また Milkau は1898年に王立図書館の目録をコピーしたカードを各大学に順送りし、これに各図書館が所蔵記録や新記入を追加する方式をとることを主張した。

このプロイセンの総合目録とは別個に、Christian Berghoefter は1891年に個人的な事業として Frankfurter Sammel-Katalog をつくりだした。ドイツ語使用国にある大図書館の印刷目録を切り貼りし、1501年以降刊行の図書を収録したもので400万枚のカードからなり、1922年に公開された。戦争の影響で不完全になった点はあるが、まだ現在でもこの目録は使用可能である。

図書館協力のための目録規則

ドイツ各地の図書館では、はじめ館のなかで口伝で伝承されていた目録に関する取り決めがだんだん成文化されるようになった。そして1850年頃ミュンヘンで成文化され、手写された規則がその後のドイツ各地の図書館の目録規則に影響を与える源流となった。

すでにふれた1886年の Dziatzko の規則も部分的にミュンヘンの規則の影響を受けている。1890年にベルリンの王立図書館は目録カード作成用の規則 “Instruktion für die Herstellung der Zettel des alphabetischen Kataloges” を制定したが、基本記入の選定の部は Dziatzko の規則と同一であった。1892年省令に基づいてプロイセンの全図書館は1890年の規則を増補したものを使用することになった。

1896年にプロイセン総合目録事業の予算が確定するとともに、総合目録用の新規規則を制定する必要がでてきた。1892年の規則はこの新事業には不適當なことが明らかになったからである。新規規則は、従来の規則の欠点を修正し、簡潔で排列が容易なものとすることを目標とした。1896年目録委員会は Dziatzko の規則を新規規則の基礎とすることを決定した。1897年に Dziatzko, Erman, Ippel, Milkau, Simon からなる小委員会が修正点を検討し、Milkau が第2草案、第3草案を作成したが、最終案は Dziatzko のものとは全く異なるものとなってしまった。

1899年に新規規則は “Instruktionen für die alphabetischen Katalog der preussischen Bibliotheken und für den preussischen Gesamtkatalog vom 10. Mai 1899” として発表された。1905年にはその注解、増補と実例の補遺 “Erläuterungen, Nachträge, Beispielzusätze” が刊行された。1904年に初版が絶版となったこともあり、1908年に第2版が刊行されたが、この版においては総合目録に関する規定は印刷されず、書名からも末尾の “...und für den preussischen Gesamtkatalog” という語句が削除されている。2版の23条に簡略記入の条項が新設され、かつ省令によってこの規定が正式に

認められたことは、特記すべき改正点である。

この Instruktion はドイツ国内のみならず、オーストリアをはじめ、ハンガリー、スウェーデン、スイスで広く、デンマーク、オランダ、ノルウェーでは一部において使用され、ドイツ語圏諸国を中心としたヨーロッパの標準目録規則となった。この規則の普及にはプロイセン王立図書館における総合目録刊行や印刷カード・サービスが大いに影響していることは言うまでもないことである。

英語圏諸国における最初の統一的目録規則は、1908年刊行の英米目録規則であり、この規則の制定過程においてすでに刊行されていた Instruktion とその補遺が参考に用いられている。しかしこのドイツ系目録規則と英米系目録規則には根本的な原則の相違があり、この相違点は1961年の国際目録法原則会議で参加各国の同意による諸原則が承認されるまで、両者は平行線のまま調整されることなしに持ち越されていた。この根本的な相違点とは、ドイツ系規則において団体著者の概念がなく、無著者名図書 の取扱いが相違していることである。

総合目録事業の進展

Milkau が示唆したように、Instruktion が制定されると、記入数が150万あるベルリン王立図書館の目録は Instruktion にしたがって訂正され、1902年の半ばにこの作業は完了した。総合目録の基礎となる巡回用のカードはこの訂正済み目録をコピーしたもので、6年がかりで150万枚がコピーされた。コピー作業開始の6か月後、1902年1月2日から毎日、平均150枚のカードが次に示すような順で、プロイセン国内の大学図書館を時計回りの方向で巡回しだした。

Berlin→Breslau→Halle→
Marburg→Bonn→Münster→
Göttingen→Kiel→Greifswald→
Königsberg→Berlin

この巡回カードを受け取った図書館は自
己の蔵書と比較し、同一図書があれば所蔵
を記載し、相当する図書がなければカード
を作成して付け加えた。この巡回は第1次
大戦後の1922年に終了している。

総合目録事業はベルリン王立図書館長
Wilmannsを長とする委員会で開催されて
いたが、1907年に図書館関係諮問委員会
の所管となった。

1904年には早くもベルリンの総合目録は
所在調査を開始していて、1905年には3,300
件だった調査は1934年には2万1,000件に
達し、別途に現地ベルリンにおける利用が
2万2,500件あった。

冊子目録の刊行

ベルリン王立図書館の目録をコピーした
カードの巡回はまだ完了していなかった
が、総合目録事業が進展したため、プロイ
セン図書館長会議は1911年、満場一致で総
合目録の印刷開始を決議し、翌年サンプル
コピーが印刷された。ふたたび、1914年に
全原稿が完成する前に印刷を開始すること
が決議されたが、この年に勃発した第1次
世界大戦とその後のインフレのために実現
しなかった。

第1次大戦後ドイツは共和制となり、
1921年からMilkauはプロイセン国立図書
館長になったが、彼は経済状況が好転して
きた1925年、当局に対して総合目録の印刷
再開を申し入れた。

総合目録はその範囲を拡大し、プロイセ
ンの4工科大学、Braunsbergアカデミー、
バイエルン州立図書館とウィーン国立図書館

の蔵書も収録することにした。1931年に第
1巻が刊行されたが、これはすでに刊行さ
れていた大英博物館とフランス国立図書館
の蔵書目録に大体匹敵する規模となり、収
録内容は相互に補い合う形になるため世界
の図書館界から歓迎された。

収録対象は、1930年1月1日より前に刊
行された図書で、聖書と雑誌は別の巻にす
ることになっていた。また次に示す資料は
プロイセン総合目録には収録されなかつ
た。

- 1) 東洋諸言語の文字を記入中に含むもの
- 2) 楽譜
- 3) 外国の学位論文を除く、大学や学校の出版物
- 4) 一枚ものの地図
- 5) 1800年前の個人出版物
- 6) 標題紙のない抜き刷り
- 7) パンフレットの合綴本

1931年には総合目録原稿作成用の規則が
刊行されたが、カード目録と冊子目録との
相違もありInstruktionとはかなり異な
った点があった。

1935年の末にAの部の最後までが刊行さ
れたが、ここまですで8巻、91,469タイトル
になった。世界的な経済不況にもかかわらず
予約数は310に達し、その半数以上はドイ
ツ国外からのものであった。

この冊子目録刊行による成果としては、
次の3点があげられている。

- 1) 大英博物館、フランス国立図書館の
冊子目録に匹敵する書誌的ツールで
ある。
- 2) 図書館間相互貸借を増進した。
- 3) 多くの図書館の、各館ごとの目録規
則による古い目録を、標準目録規則
に基づく統一的な記入によって更新

する上で役立つ。この場合、印刷カード・サービスが行なわれるともっとよいが、その事業費用捻出の目安はなかった。

ドイツ総合目録への拡張

総合目録の範囲をドイツ全体に拡げることが図書館界全体から望まれていた。ヒトラー政権のもとで図書館行政は文部省のもとに一元化され、1935年の省令によって総合目録はドイツ全域をカバーした“Deutscher Gesamtkatalog”となった。Bの部の冒頭からドイツ総合目録は刊行されたしたが、第2次大戦のため1939年で第14巻かぎり永久に中絶してしまっただ。

範囲が拡大され、オーストリアの8館をふくめて102館の蔵書が収録されることになったが、その全蔵書量は3,500万冊以上と推定されていた。参加館の選定基準は、公開の図書館蔵書で10万冊以上のもの全部と、10万以下でも特色のあるコレクションを有するものということであった。

範囲拡大に対処する事務措置は次のようにして行なわれた。ドイツ総合目録となっても依然として編さん業務の主体はプロイセン国立図書館であったが、まずプロイセン総合目録の原稿を特に蔵書量の多い37館に送り、所蔵と新記入を追記してもらう。プロイセン国立図書館はこれらを取りまとめて新原稿を作成し、これを全参加館に送付して所蔵と新記入を追記してもらうという方式とした。

収録する図書の種類は次に示すように若干変更された。

- 1) ドイツ総合目録で収録することにしたもの
 - a. 東洋関係資料で西欧語に翻訳されたものと、西欧の著作で東洋語に

翻訳されたもの。

- b. 個人出版物
 - c. すべての外国大学出版物
 - d. 1810年までのドイツの大学出版物
- 2) 1850年以降発行であり価値がない出版物を収録しない方針の徹底

あまり価値がない出版物は、収録したとしても記入を極端に略語化することにした。価値の判定は原則として報告館が行なうことにしたが、その理由は手もとの資料に基づいて判定を下すことができるためである。

『プロイセン総合目録』は150冊で完結する予定だったが、『ドイツ総合目録』となってその範囲を拡大しても、ファインディング・リストに徹して記入内容を切り詰めたため、記入数が増加しても全体の冊数は変更させない方針だった。

Berliner Titeldrucke の役割

プロイセン総合目録は1930年より前に発行のものを収録していたのだが、新受入れ分の速報については Berliner Titeldrucke がその役割を分担し、1930年以降プロイセン総合目録の補遺となった。年刊集積版、5年刊版(1930—34)も刊行され、1938年には名称を変更して Deutscher Gesamtkatalog Zugang となった。

ここで1892年に刊行が開始されたプロイセン王立図書館の受入速報“Berliner Titeldrucke (BTD)”の歴史を若干ふりかえってみたい。

BTDは、単に王立図書館1館のみの受入速報だったのではなく、次のように参加館が増加している。

1892年	ベルリン大学図書館
1897年	他のプロイセンの大学
1928年	プロイセンの4工科大学

1931年 ウィン国立図書館
 1932年 オーストリアの図書館 8館と
 Braunsberg アカデミー
 1934年 バイエレン州立図書館
 1936年にはドイツ総合目録と同様全国規模
 となった。

Berliner Titeldrucke の名称が正式なも
 のとなったのは1911年のことであり、1909
 年からはカード形態のものもプロイセン王
 立図書館で頒布を開始した。カードの方は
 Berliner Zettdrucke (BZD) と呼ばれて
 いた。収録範囲は、1892年から1927年ま
 での間は1892年以降の刊年をもつ新受入図書
 を収録することにしてきた。1928年以後は
 刊年にかかわらずすべての新受入図書を
 収録することになった。地図と楽譜は1908
 年まで収録し、雑誌は1903年以来収録して
 いた。

第三帝国の図書館行政と全国書誌

1933年1月ヒトラーが首相に就任し、5
 月には焚書が起っている。マルクス、エン
 ゲルス、ハイネ、トーマス・マン、プレヒ
 トらの著作がその対象となった。図書館へ
 の政治的介入は当然のこととして行なわれ
 た。一番明白にそれがみとめられるのは全
 国書誌である。ライプチヒのドイッチェ・
 ビュッヒャライがその編纂にあっていたが、
 1937年2月8日付啓蒙宣伝省からの公文書
 によりユダヤの出版物の収録を禁止され、
 1940年にはゲッベルス指揮下の同省の一
 組織に編入された。戦後ドイッチェ・ビ
 ュッヒャライは1933年から1945年まで収録
 できなかった出版物について全国書誌の補
 遺版を出している。これには民主主義的、
 人文主義的、共産主義的出版物やユダヤ人
 の著作、亡命ドイツ人の著作が5,485タイ
 トル収録されている。

西ドイツに戦後設立されたドイッチェ・

ビブリオテークは、ライプチヒのドイッチ
 ャ・ビュッヒャライと同じ機能をもつ図書
 館で、全国書誌編纂を行なっているが、そ
 こでも亡命ドイツ人の著作をまとめた目録
 が出されている。

第三帝国は各分野で地方分権を打破した
 が、図書館行政においても中央集権化をは
 かり、ドイツにそれまで存在しなかった義
 務納本制を法定化しようとしたが、これ
 は草案のままに終わっている。

おわりに

現在世界で行なわれている、総合目録を
 中心とした図書館協力事業は、アメリカ議
 会図書館のものが最大規模であろう。この
 ように概観してきてみると、今アメリカで
 行なわれている事業の原型は、すべて戦前
 のドイツにおいて計画され、実行されてい
 たといっても過言ではないかもしれない。

大英博物館の第2回目の蔵書目録は、か
 つての Francis 館長の英断によって、1955
 年までの蔵書を収録した263冊の目録とし
 て完成し、その後は補遺も順調に刊行され
 ている。フランス国立図書館の目録は1900
 年に刊行が開始されたものが、まだ完成し
 ないでいる。

第2次大戦前のドイツ総合目録はプロイ
 センの権力的国家主義のもとで発足し、第
 1次大戦、ワイマール共和国、ナチス・ド
 イツという歴史の流れとともに発展し、時
 に停滞しつつ拡大していったが、ついに第
 2次世界大戦によって壊滅してしまった。

戦後はこの教訓を生かして新しいドイツ
 の図書館協力と地域別総合目録が発足する
 ことになる。

（まるやま・しょうじろう
 図書部外国図書課主査
 ひらの・みえこ
 整理部分類課副主査）